

## 新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会

### これからの検討課題と提案

#### 1. 緑化の課題（武蔵野らしい緑化の実現）

- ・新たなクリーンセンターのイメージに合った緑化

現クリーンセンターの緑化は、遮蔽や環境圧の軽減を目的とした緩衝緑地であったが、新クリーンセンターの緑化は、景観性や快適性のある明るい緑地が相応しい。

明るく、利用しやすい緑地は、落葉樹主体で、地域景観としては武蔵野を象徴する雑木林や屋敷林と共通したイメージが想定される。

- ・新施設の緑のあり方

現在の常緑樹主体の3層構成（高木・中木・低木）から視線の抜ける2層構成（高木・低木）、又は単層構成（高木・地被）で、夏の緑陰、冬の日当たりを提供する落葉樹主体の緑地。例えば武蔵野の雑木林。

#### 提案：武蔵野育ちの樹木植栽

- ・武蔵野市が所有し、唯一郷土の植生が残る境山野緑地で育った雑木を新クリーンセンターに移植
- ・市内の材料で雑木林をつくることで、全市からクリーンセンターや環境への興味をもってもらい、落葉の堆肥化など、ごみの減量につながる活動を市内にネットワークするきっかけをつくる。

#### 2. 周辺公共施設の課題（緑町ふれあい広場のあり方の検討）

緑町ふれあい広場は、都市計画の公園であるが、野球場とテニスコートは、公園指定から外れている。

都市公園法では、運動公園のスポーツ施設率は、50%未満と定められており、施設率が約8割と想定されるクリーンセンター北側エリアは、施設過剰である。全体が都市計画公園ではないといっても、市民の目からはこのエリアは、一体の公園として捉えられる。50%未満に減らすことは難しいとしても、現状よりは施設率を減らし、緑化率を上げる姿勢が必要である。

#### 3. 駐車場の課題（駐車場の利用実態に即した再配置）

総合体育館周辺の駐車場が満車となるのは、主に休日である。駐車車両は、多摩ナンバー以外も多く見られる。総合体育館周辺は、公共交通の便がよく、駐輪スペースも充足している。車を利用すべき利用者（道具を必要とする団体協議のサポート、障がい者など）を絞り込み、周辺の公共施設の駐車場を含めて再配置する必要がある。

#### 具体的な検討内容

- ・限られた周辺の公有地を考慮すれば、混雑時（休日）に使われていない公共施設の駐車場の利用など運用面での工夫が不可欠となる。
- ・現在の駐車場配置は、進入方向、走行経路、満車時の車の移動順などが、全く考慮されていない。大系的な計画の検討が必要である。